

登録コード:MH103100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	人体の構造と機能III (症候学) 【20M以降】 Human Structure and Function III (Symptomatology)		
担当教員	伊澤 淳		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/1学年 後期 月曜・3時限		
単位数、講義室	1単位	多目的講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔ 授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	健康障害によって生じる身体症候について、原因となる複数の病態との関連を内科学に基づいて全人的に理解し、症候を呈する病者に対して適切な支援を立案することができる。
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	健康障害によって生じる身体症候を正しく分析し、原因となる主な疾患を想起して健康障害に対する適切な対処と臨床判断の進め方について、内科学の科学的根拠に基づいて理解することができる。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	健康障害によって生じる身体症候を病態生理に基づいて理解し、原因となる主な疾患の頻度、検査、治療、予防、指導の概要について、看護専門職者に必要な基礎的知識を修得し、病者に対する看護実践を想起できる。 健康障害によって生じる多様な身体症候について、原因となる主な疾患とそれぞれの病態を内科学の幅広い科学的根拠に基づいて全人的に理解し、健康課題に対する看護実践の探究に取組む力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	人体の構造と機能 I (解剖学)、II (生理学) で学修した人体の構造と機能に関する知識を基盤として、人間の健康障害の結果として生じる主な身体症候の概要と、それぞれの病態生理を学び、原因となる主な疾患の概要を学びます。 主要な身体症候の原因となる主な疾患について学び、原因を明らかにするための検査とその結果の評価、治療や予防、指導法を学び、健康障害を持つ人への看護実践のための基礎的知識を修得します。 この授業では、担当教員の総合内科専門医としての実務経験を活かして講義を行います。また、本授業で学修した症候学の知識は、2年次の成人看護健康論 I (内科学)、成人看護健康論 II (外科学) で学修する内容の基盤となり、2年次後期以降の臨床実習における重要な基礎知識となります。		
授業計画	第1回 (9月28日) 全身倦怠感、発熱、胸痛 第2回 (10月5日) 動悸、呼吸困難、息切れ 第3回 (10月14日[水]) 咳、痰、チアノーゼ、ショック 第4回 (10月19日) 脳心血管病、動脈硬化、血行動態の評価と心不全 第5回 (10月26日) 浮腫、嚥下困難、胸やけ 第6回 (11月2日) 悪心、嘔吐、腹痛 第7回 (11月9日) 便秘、下痢、吐血、下血 第8回 (11月16日) 中間試験 第9回 (11月26日[木]) 医療面接とコミュニケーション 第10回 (11月30日) 頭痛、めまい、耳鳴り 第11回 (12月7日) けいれん、意識障害、失神 第12回 (12月14日) 運動失調、運動麻痺、感覚障害、言語障害、高次脳機能障害 第13回 (12月21日) 神経・筋疾患 1 第14回 (1月4日) 神経・筋疾患 2 第15回 (1月18日) 神経・筋疾患 3 ; 授業アンケート 第16回 (1月25日) 期末試験		
授業の進め方	内科学のテキスト、授業のスライド (資料) を用いて進めます。資料で空欄となっている重要事項を授業中に記入します。また、資料の重要なページは"ポイントマーク"で示されています。 授業の資料はeALPSに掲載しますので、事前にダウンロードしておき、当日はWifiを利用しない方法を勧めます (情報の送信が集中するとWifiが繋がりにくくなります)。 各授業の予習と復習ができるように進めます。第2回以降は、前回の授業で提示された課題を事前にeALPSで提出し、授業の最初の5分間で前回の授業内容と関連する問題に取り組みます。 身体症候の原因となる病態・疾患は多様であり、それぞれの病態の特徴が理解できるように授業を進めます。 後半は神経症候を学修した後に、神経・筋疾患の病態について詳しく学びます。 授業中には既出の学修内容について質問します。積極的な発言と質問を歓迎します。		
テキスト、教材、参考書	(テキスト)		

テキスト，教材，参考書	なるほどなっとく！内科学 改訂第3版：浅野嘉延 編 南山堂 （参考図書） ナーシング・グラフィカ 成人看護学 ② 健康危機状況／セルフケアの再獲得 改訂第2版 メディカ出版 NICE成人看護学 成人看護技術 改訂第3版 南江堂 わかりやすい内科学 第5版：井村裕夫他 編 文光堂
成績評価の方法	成績評価は、①中間試験（11月16日）、②期末試験（1月25日）、③予習のミニレポートで行います。 【配点】中間試験 50点と、期末試験 50点の合計 100点。 予習のミニレポートは提出を原則とし、未提出は-1点とします。 試験は、講義で扱った全ての主要症候と背景となる疾患を対象とした筆記試験です。症候の病態生理、原因となる疾患や病態、原因を検索するための検査法、対処法や治療法、予防や生活指導、必要な看護等について、理解度と到達レベルを評価します。期末試験の試験範囲は、中間試験以降の範囲です。国家試験形式の選択問題を中心として、記述問題を含むことがあります。
成績評価の基準	【評価】 中間試験 50点と期末試験 50点の合計 100点とし、60点以上を合格とします。 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可。 評価の基準は上記の通りですが、その目安は、国家試験レベルの問題が正答できれば「水準にある（可）」、授業でキーポイントとした重要事項が正答できれば「やや上にある（良）」、授業で扱った詳細事項が正答できれば「かなり上にある（優）」、正答率が卓越している場合は「卓越している（秀）」です。
事前事後学習の内容	1. 事前学習について 授業の終わりに次回までに予習する事前課題を説明します。2回目以降のeALPSに課題を毎回設定しますので、予習した内容をミニレポートとしてeALPSから提出してください（60分の自己学習として取り組んだ内容としており、書式、字数等は定めていません）。 2. 事後学習について 授業の始めに、前回の授業内容に関連する問題に取り組む時間を設けますので、復習をして授業に臨んで下さい。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間x15回）+ 自己学習時間15時間（1時間x15回）= 45時間。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	担当教員（伊澤）が本科目と2年生の前期の科目「成人看護健康論Ⅰ（内科学）」を単独で担当し、内科学が扱うさまざまな健康障害による症候と疾患について広く学びます。2年生の学修につながるように学びを深めましょう。 質問や相談は、授業の前後あるいは以下のように対応します。 質問への対応：伊澤 淳 izawa611@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：金曜 16時－17時 伊澤研究室（保健学科中校舎4階）での対面による質問や相談を希望する方は、日程調整のため事前にメール（izawa611@shinshu-u.ac.jp）で可能な日時を複数提示してください。